



お知らせ

『平成24年度(第31回)まちづくり拝見研修会』に参加して

～岐阜県大垣市・広島県尾道市～

■岐阜県大垣市

東海村役場建設水道部 都市政策課主事／小原澤 俊明

【はじめに】

平成24年7月6日(金)、岐阜県大垣市で『平成24年度(第31回)まちづくり拝見研修会』が行われました。午前の部では「大垣市景観遺産の取り組み」などの講演をはじめとした講習会があり、午後の部では歴史・文化を活かした観光交流拠点整備や駅周辺施設の再整備など新しいまちづくりの状況を巡る現地調査を行いました。

以下、本研修の概要についてご報告します。

【講演】

○都市行政の最近の動き

国土交通省が持続可能で活力ある国土・地域づくりの柱としている【4つの価値, 8つの方向性】の基本方針を含めた「持続可能で活力ある国土・地域づくりの推進について」の概要説明が行われました。

○講演①「大垣市景観遺産の取り組み」

(名古屋市立大学大学院 溝口 正人 教授)

21世紀におけるまちづくりの社会的前提として「住み続け、使い続けるまち」ということがあり、その中で遺産は「遺産=財」としてまちづくりの上での元手で、まちづくりに直結し、TPOに合わせた活用が必要になるとのことでした。大垣市景観遺産制度が意図したものとしては、「自然・文化的な景観」、「現代建築の先取り」、「市民が愛着の持てる風景」ということを含めた大垣らしさを地域・全市双方から悉皆的・横断的にすくい取ることとの講演があり、まちづくりの視点では都市計画・景観・文化・財との分野別ではなく、一括してみるのが重要であることを認識しました。

○講演②「中心市街地整備について」

(大垣市都市計画部都市計画課長 北村 弘司 氏)

大垣市は「にぎわいの創出」と「まちなか居住の推進」を目標に『大垣市中心市街地活性化基本計画』を策定し、大垣駅南北自由通路や大垣駅北口広場等の整備を進め、市街地の整備改善を実施しています。さらにIT企業を集積した情報産業基地であるソフトピアジャパン周辺地区を市街化区域に編入し、計画的な市街地の形成を図っており、ソフト・ハード面からも大変参考になりました。

【現地調査】

『大垣駅周辺』に関しては、大垣市中心市街地活性化基本計画の全体方針として「歩いて楽しめるとともに、住みやすく便利な『大垣らしい』魅力を発揮しまち全体でにぎわいを創出する」と掲げていることから、駅南北の歩行者動線整備は現地を見て回遊性の向上に多大な効果があると実感しました。また、「水都」ということで駅北口広場に自噴水があることが印象的でした。



<大垣駅北口広場>

情報産業拠点施設として、市街化区域に編入した『ソフトピアジャパン周辺地区』では、情報関連産業の集積を誘導することや、これに伴う人口集中が予想されることから、地区計画で多様な産業の誘導を図りつつ、安全・安心で良好な住環境の誘導や旧集落との共存を図るなど計画的なまちづくりがなされていることが良くわかりました。

『奥の細道むすびの地記念館』は、奥の細道むすびの地としてこれまでの芭蕉の足跡や大垣市の歴史・文化を築き上げた先賢の偉業がわかり、歴史の継承や憩いと賑わいの空間として貴重な施設でした。3Dを用いた芭蕉足跡の映像は現代的でありながら当時の景色を見ている様な印象深い内容でした。



<奥の細道むすびの地記念館>

【おわりに】

まちづくり拝見研修会に参加して、地域の特性に合わせた都市計画をすることの重要性を改めて認識しました。また、これからは歴史・文化と共存を図り、時代に合わせた計画的なまちづくりをすることが大事になることを実感しました。

■広島県尾道市

石岡市都市建設部 都市計画課／主事 福田 哲也

【はじめに】

平成24年11月16日、(財)都市計画協会が主催する平成24年度「まちづくり拝見研修会」に参加しました。斜面市街地に広がる眺望景観と、地域特性や歴史的風致を活かしたまちづくり、地域と行政が連携した協働のまちづくりの視察ということで、今回は広島県尾道市を訪れました。以下、本視察の概要について報告します。

【講演】

午前は実例紹介の講演が行われました。

①「尾道市のまちづくり」

(尾道市 都市部 まちづくり推進課長 岡田 正弘 氏)

現在、尾道市で行われている駅前の景観への取り組みから市街地の歴史的風致維持向上計画、空き家再生促進事業についての紹介がありました。

②「尾道の空き家、再生します。」

(NPO法人 空き家再生プロジェクト 代表理事 豊田 雅子 氏)

空き家を再生しイベントや、芸術家の滞在制作(AIR, artist in residenceの略)の場として活用したり、定住してくれる移住者へ提供しているとのことでした。また、移住者を定住へ繋げるために仕事の提供をいかに行うかが今後の課題とのことでした。

③『「南人子さんとこ」誕生物語 その活動から学んだこと』

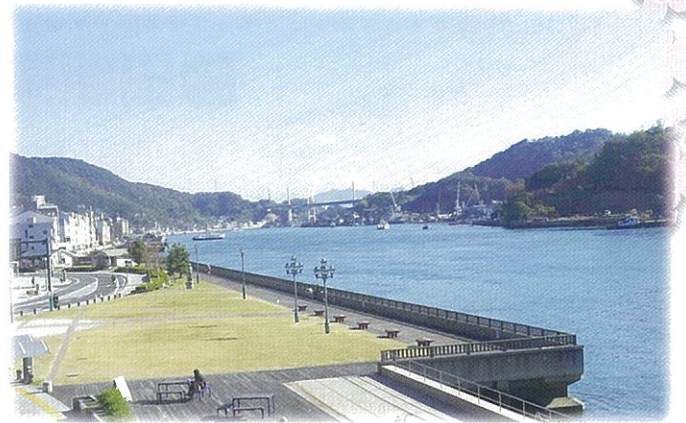
(長江中町内会まちづくり研究会 代表 香本 昌義 氏)

長江中町内会と市の協働事業についての紹介がありました。市の指定する避難場所は、一度坂を下りたあとにまた登らなければならない場所にあります。高齢化率が50%に迫り独居老人が多い長江中町では避難が困難なので、日本画家 森谷南人子が生前暮らしていた旧宅跡地を協働で改修し地域の憩いのスペース「南人子さんとこ」として再生し、避難場所としても利用しているとのことでした。

【現地調査】

午後からは、講演で紹介された空き家再生や協働まちづくりの実例の現地視察を行いました。尾道市の空き家再生プロジェクトでは、滞在している芸術家と協力し、内装や外壁に作品を盛り込むことで特徴を出し、それぞれにコンセプトを持たせ再生することで、周辺エリアの活性化を目指しているとのことでした。

例えば、北村用品店は子連れママの井戸端サロン、三軒家アパートメントは昭和のレトロなアパートの風情を創作に生かす活動場、坂の家は一時滞者用のレンタルハウスといったコンセプトになっています。尾道ガウディハウス(旧和泉家別邸)は、当時の部材を残しつつ、斜面地における空き家再生のシンボルとして、プロセスを共有しながら再生しているとのことでした。



〈駅前の景観〉

また国の労働基準監督署を再生した光明寺會館では、1階はAIR CAFEという名のカフェを運営し、2階は芸術家による作品展示やイベント会場として利用されていました。最後に訪れた長江中町では、行政と市民の協働で作った避難所と休憩所を拝見しました。



〈尾道ガウディハウス〉

【おわりに】

今回の研修は、空き家再生事業と行政と地域の協働まちづくりという内容でした。石岡市でも国の有形登録文化財であり、江戸時代末期に建てられた染物屋「丁子屋」を再生し、各種展示や特産品の販売、珈琲・抹茶などの提供を行っておりますが、今回視察した尾道市の行政と市民が協働してまちを活性化する活動や事業の取り組みは大変参考になりました。